議員と話す出前トーク報告書

<table>
<tr><td>開　催　日　時</td><td colspan="2">令和８年１１月 ５日（木）　 ９時　３０分　～　１１時　２０分</td></tr>
<tr><td>相　　手　　方</td><td colspan="2">農業委員会委員、　農地利用最適化推進委員</td></tr>
<tr><td>開　催　場　所</td><td colspan="2">松阪市議会棟　第一第二委員会室</td></tr>
<tr><td rowspan="4">出　席　議　員</td><td colspan="2">① 小野 建二（委員長）　② 西口 真理（副委員長）　③ 酒井 由美
④ 市野 幸男　　⑤ 深田 龍　　⑥ 山本 芳敬</td></tr>
<tr><td>司会進行者</td><td>山口 隆久（農業委員会）</td></tr>
<tr><td>報　告　者</td><td>西口 真理</td></tr>
<tr><td>記　録　者</td><td>西口 真理</td></tr>
<tr><td>参　加　人　数</td><td colspan="2">２８名</td></tr>
<tr><td>意見・要望等
主な質疑応答</td><td colspan="2">別紙のとおり。</td></tr>
<tr><td>報告者の所感</td><td colspan="2">別紙のとおり。</td></tr>
</table>

松阪市議会議長　沖　和哉　　様

令和　８ 年 １１ 月　１０日

松阪市議会議員と話す出前トーク実施要綱第９条の規定により提出します。

報告者　　西口 真理

意見交換
【テーマ　農業を取り巻く現状と課題について】

【意見・要望等】

１.圃場整備、担い手不足

・圃場整備の遅れている地域では農地集積が進まず、担い手が定まりにくい。大型農機を使う担い手が、狭小・未整備の農地は引き受けられず、耕作放棄地化している現状がある。
・圃場整備には地権者の合意形成や事業費負担が必要になる。すでに耕作を委託している地主の反対、農振農用地の除外・編入手続き、補助制度の条件の厳しさも障壁となっている。市としても集約化を進めるための支援をして欲しい。
・担い手の課題としては、水不足、農地集積の遅れ、気候変動、鳥獣害などによる採算性の問題がある。地域によっては８月中旬に水供給が止まり、田植えが遅い担い手にとっては出穂期に水不足となり、収量が低下する。地域の水管理や農地整備の見直しが必要。
・国の農業政策への不安、米価の変動、資材高騰など、農業の先行き不安から担い手が増えない。若い世代が農業で生活できる収益性を保てるような支援体制が必要だ。

２.耕作放棄地と農地の活用

・特に山間部では、未整備の農地に大型農機が入れず、担い手が耕作を断ることで農地が荒廃していく場合が多い。農機のレンタルだけでは、高齢化や耕作意欲の低下を解決できない。一度荒廃した土地は農地として再開するのは難しい。都城市の農機導入支援などを参考にして、自治体独自の支援も必要。
・熊野市では耕作放棄地でコーヒーを栽培し、販売も含めて熊野の名産にしようという事業を市がプロジェクトチームを作ってやっている。松阪市も、圃場整備がしにくい中山間地を活かしていく方法を考えていかなければならない。
・田んぼと畑では課題が異なる。畑は担い手や収益性を確保しにくく、相続人が地域外に住み、耕作も委託もしない土地の草刈りを自治会が担うこともある。地域内の畑については、耕作が難しい場合は、低層住宅の建設を認めるよう検討してもらいたい。（鈴鹿市の田園住宅制度を参考に）

３.太陽光発電と土地利用上の懸念

・農地や住宅隣接地での太陽光発電施設の設置が進んでいる。景観の変化、台

風・大雨時の土砂崩落や設備破壊、事業者が撤退した後の管理責任など、懸念が多い。
・営農型太陽光では、パネルの下の農地が耕作されなくなり、草地化している事例もある。耕作放棄地を買い取る業者の無責任な勧誘や、個人間の土地取引によって設備設置が進むことへの不安が大きい。
・申請の手続きに不備がなければ、国の方針や農地法の基準により許可されていく。地域住民や自治会が反対しても、現行制度では設置を止める権限がない。説明会の開催が求められるようになったが、反対意見が出ても、設置を中止させることはできない。
・市独自の設置ガイドラインや条例制定が必要ではないか。

４.農業経営、小規模・兼業農家への支援
・肥料、燃料、農機具などの価格が高騰する一方、農産物価格に生産コストが反映されておらず、生活していくのが厳しい。農業を続けて生活できる所得の確保が必要。
・松阪地域では兼業農家が減り、条件の良い田んぼも荒れている。高額なトラクターなどの購入や、農機の故障・修理費の負担が離農に繋がる。現在の補助制度は担い手に偏っているが、担い手要件を満たさない兼業・小規模農家にも機械購入支援を広げる等、市全体で小規模農家を支える仕組みを作って欲しい。
・市街化地域では農業用水路や農道整備が補助対象になりにくい。農業委員会だけではなく農林水産課など関係部署との連携が必要。
・新規就農では、設備投資や技術習得の負担が大きい。中古ハウスの譲渡やＪＡの仲介で費用を抑えた事例がある一方、施設の移設にも労力や専門知識が必要なため、研修や実践的な支援の拡充を。

５.その他
・２０１８年の種子法廃止以降、国内の種子生産が減り、外国依存が高まっていることに懸念する。食料安全保障の観点から、国内自給に向けて国に働きかける必要がある。
・松阪牛について。肥育農家の減少、電気代・飼料代の高騰、特産松阪牛の基礎となる但馬牛の子牛確保の難しさなど、ブランドの存続が危ぶまれている。食肉公社の更新を地域全体の課題として捉え、市全体で農家の負担を軽減する仕組みを考えるべき。

【議会（文教経済委員会）としての見解】

１.圃場整備、担い手不足

・地域の農業を守るためには集積化の方向は必至と考える。市内では大きな圃場でありながら圃場整備ができていない所がある。市としても現場に入っていって積極的に推進して、そのためには補助金も必要である。
・６０キロ当たり２０,５３５円とのコスト指標が出ている。それをはるかに下回った買い取り価格では経営が立ちいかない。コストに見合った価格を消費者にも理解を求めていかなくてはならない。
・農地中間管理機構を利用した圃場整備が勧められているが、条件が厳しく、農家の負担も大きく地域の合意形成が得られにくい。また、貴重な土の畦畔、水路を守ろうという取り組みもある。圃場整備と自然環境を守ることの兼ね合いも今後の課題である。

２.耕作放棄地と農地の活用

・都会からの移住者にとっては、自給自足の生活は憧れでもある。移住者・新規就農者に向けに耕作放棄地の情報を発信し、空き家情報と同様のマッチングを行うことにより、新しい農業希望者と結び付けられないか。

３.太陽光発電と土地利用上の懸念

・耕作放棄地に知らぬ間にソーラーパネルが乱立していたり、住宅のすぐ脇にも設置されている。市民からの不安の声もよくお聞きするし、将来については危惧している。
・市町村単位で規制条例を制定している地域があることは認識している。県のガイドラインだけでなく、より強い市独自の条例を作っていくことに関しては、議会としてももう少し調査研究させていただきたい。

４.農業経営、小規模・兼業農家への支援

・基盤整備をして大規模化を進める一方、中小の兼業農家を守っていかなければという方向性は同意する。これまでも市に訴えてきたが、あまり危機感がないようだ。今後も市、県に対して要望していく。
・農業政策は国によるものがほとんどで、残念ながら松阪市独自の支援策はほとんどないのが現状である。地域の農業を守り、農家を守るために、市として何をすれば良いか、今後もしっかり研究し、市へ訴えていきたい。

報告者所感

今回は、担い手さん、兼業農家さん、若手・女性農業者さん、元 JA 職員さんなど様々な立場、また、山間部、市街地、海岸部まで異なる地域から多くの方に集まっていただき、それぞれの現場の声を聞かせていただけた。農業委員さん、農地利用適正化推進委員さんの抱える切実な問題やこの地域の農業の将来を憂慮する真剣な思いを実感した。

高齢化による農業離れ、採算の取れない農業経営、担い手不足などなど、農業を取り巻く現状は厳しいが、国の農業施策の下請け機関としてではなく、市独自で地域の農業の将来に向けたビジョンを持たなければいけないであろう。

とりわけ、今回議題となった離農を防ぎ、農業者を守るための市としての補助金支給や支援政策、太陽光発電設備設置に係るガイドラインや条例制定などは、他市の先行事例なども研究して、当委員会としてもしっかり取り組み、市に提言していきたい。

議員と話す出前トークの様子

